

推 奨 映 画 に つ い て

推奨番号 135号

題 名	不良少年の夢
製 作	株式会社アマナスキネマ東京
配 給	特定非営利活動法人 C.T.S
内 容	<p>1988年、家庭や学校など、何処にも居場所を失った不良少年である義家(よしいえ)は、日本で初めて全国からの高校中退者の受入れをする北星学園余市高校に入学する。</p> <p>入学早々、同じ寮に住む生徒達と衝突したり、学校をさぼる義家であったが、クラス全員の進級をめざす担任の安達は、辛抱強く義家に働きかけていく。</p> <p>安達ら教師陣の熱心な指導の中、寮生とも仲を回復した義家は、最後の居場所である余市高校で学校生活を送るようになるが、ある時、寮の仲間と大暴れし、そろって強制退寮となってしまう。</p> <p>教師達の尽力で、滝本夫妻が始めたばかりの海星寮に入寮した義家達であったが、夜中にこっそり抜け出しては、「タイマン・トーナメント」を繰り返すのであった。だが、それは学校と寮に迷惑を掛けない彼らなりのルールによるものであった。</p> <p>義家は、次第に、温かく見守る安達や家族として親身に接する滝本夫妻に心を開き、自分の過去や余市に来る決心をした理由を打ち明ける。</p> <p>やがて、余市高校の卒業式を迎え、北星の生徒達はそれぞれの世界へと散って行く。</p> <p>義家は大学に入り、弁護士を目指して勉学に励むが、バイク事故を起こし昏睡状態に陥ってしまう。無意識の彼に、余市から駆けつけた安達の声が聞こえてくる。「生きて、義家君。あなたは...私の夢だから。」その時、義家の心の奥に残る最後のわだかまりが消えていく。</p> <p>数年後、義家は、自分の本当の夢の居場所として、余市高校の教壇に立つこととなる。</p>
推 奨 理 由	<p>この映画は、家庭・学校・地域の何処にも居場所を失った青少年が、周囲の大人との関わりや仲間との絆を深める中で、自分の居場所を見つけ、自立していく過程を描いたものであり、青少年の健全な育成に役立つものと認められるが、高校生活を中心に描いており、中学生以上に有益と認める。</p>
上映期間・場所	<p>期間：平成16年12月～（自主上映）</p> <p>平成17年4月～（一般上映）</p> <p>場所：音戸町，倉橋町（共に2月）</p>